



支援者は多いほうがいい～医療的ケア保護者会でのお話から～



学校で医療的ケアを実施している児童生徒の保護者会を、年に2回開催しています。今回は今年度の状況報告の他に、令和4年度に本校を卒業した山本佳奈さんのお母さんに卒業後の生活の様子をお話ししていただきました。現在、2か所の事業所を利用している佳奈さん。事業所を決める際にどんなことを大事にして決めたか（家からの距離、給食、校外活動の有無、タイムケアの状況等）、訪問看護の状況（何人体制の訪問か、緊急時対応、祝祭日の利用は？）、重度訪問介護の状況（医療的ケアの実施状況、

外出時の利用は？）、利用料等について具体的にお話ししていただきました。その中で「支援者は多いほうがいい」という言葉が印象に残りました。「子どもが成人して親が年老いる卒後こそ、家での生活も把握する支援者を増やすべきだと思います」と山本さん。今回は医療的ケアが必要な生徒の卒業後の生活についてのお話でしたが、今後も保護者の先輩からのお話を聞く機会をつくれたらいいなと思いました。

令和5年度も ありがとうございます

今年度もあと終業式・卒業式を残すのみとなりました。今年度はコロナが5類になり、コロナ禍前の活動に戻しつつ感染対策をするという状況でした。近隣の小中学校ではインフルエンザも含め学級閉鎖が相次ぐ中、保護者の皆様のご協力により、本校では学級閉鎖等を行うことなく過ごせました。本当にありがとうございました。今年度を振り返り一番感じることは、「人とつながることの楽しさ・大切さ」です。クラス、学年、部、全校、地域の方々と、コロナ禍では味わえなかった人との交流が、いかに子どもたちの経験を豊かにしてくれるかを実感しました。例えば2月に行った中学部の「にこにこまつり」。クラスを超えて生徒の興味関心ごとにグループを分け、大きな恐竜（全長5m、高さ2m越！）を作るグループ、おみこし・太鼓・獅子舞等やりたいお祭りをぜんぶやるグループ、桃太郎の劇を練習して発表するグループ等、参観日も兼ねてそれぞれの活動を発表し合いました。子どもたちはもちろん、先生方も笑顔いっぱいの活動になりました。人とかかわる中で、新しい発見もあったり一緒に活動する楽しさを感じたりするひとときでした。来年度以降もこういった活動を大切にしていきたいと思います。



中学部 にこにこまつり

本年度は、小学部19名、中学部34名、高等部21名、更級農業高校内にある高等部更級分教室7名の児童生徒の皆さんが本校を卒業します。卒業式当日、在校生は式には参加しませんが、一足早く各部の卒業を祝う会で卒業生をお祝いしました。卒業生の皆さんが、最高学年として各部を牽引してくれたことに感謝し、皆さんの新たな門出を心からお祝いします。小学部・中学部は全員が中学部・高等部に進学しますが、高等部の卒業生は自分の選択した進路先に進むことになります。この学校で友達や先生と共に学んだことを糧に、新しい場所で自分の良さを生かし、活躍してほしいと思います。



また今年度末をもって多くの職員が異動となります。転退職する職員については本日お知らせいたします。保護者の皆様には、大変お世話になりました。転退職員はそれぞれの地に赴きますが、稲荷山養護学校の子もたちとの楽しい日々を胸に、お体に気をつけてご活躍いただきたいと思っております。本当にありがとうございました。